

ジャックの樹新聞 蛇淵キャンプ場1泊2日の旅♪ H25 7月22日~7月23日

暑い暑い夏がやってきましたね♪とういうことで今年もジャックの樹の1泊2日のキャンプが始まりました！！私自身(新人・鈴木)はキャンプ自体初参加だったので、普

段のプールとは一味違うかわりの中で、仲間とどんな楽しみが広がるのか、彼らのどんな一面に出会えるかわくわくしながら集合場所に到着しました。今回の旅は、社会人・学生と入りの混じった男性3名・女性2名の青年達とジャックの樹からベテラン・新人スタッフと入り混じった渡辺・永田・竹若・鈴木の4名、計9名で今回のキャンプ地の蛇淵キャンプ場を目指します。

集合時間の正午を迎え、続々と青年達が集合場所の千代町のパピヨンプラザに到着。青年達はジャックの樹のキャンプで経験を積んだベテランメンバーという事もあり、落ち着いた様子で涼しげな顔で乗車してましたね(笑)乗車後は渡辺号・永田号の車に

分かれていざ出発です。車の中でも過ごし方は様々。学生メンバーは学生らしく皆でワイワイと社会人の華子さんは永田号でスタッフ永田と2人で大人のデート気分を満喫していました♪



キャンプ場の行く途中にまずは夕食の買い出しにスーパーに停車。皆で手分けしながら食材の写真を頼りに探しに行きます。スーパー内をグルグルとまずは食材探しの旅へ(笑)しっかりと写真を見て目標を定めながら、これも欲しいなあとスーパーでつつい寄道したくなる気持ちにプレーキをかけながら、皆で作るおいしいごはんの為に食材探しの旅を続けます。『買い物』という普段何気なくしている事でも、目標を定めてゆっくりと確実に食材を探す役割を果たしたり、食材を探しまわる役

割を果たしてくれたりそれぞれ個性が表れていましたよ。それぞれの個性に合わせた形で協力をしながら、時には皆で寄り道しながら買物の旅を終えました(笑)買い物後は、キャンプ場を目指します。飯塚を抜けると徐々に田園地帯が広がっていきます。昔懐かしい木の校舎が姿を見せたりと、のどかな風景が広がっていき、皆の心も広がっていきます♪『買い物』という第一段の共同作業を終えた所で、仲間同士和んだ様子が見られ、より自然にじゃれあっている様子が見えだすといよいよ蛇淵キャンプ場に到着です。



皆でキャンプ場の方へ挨拶を済ませ、荷物をそれぞれに持って2階建のコテージへ。コテージにつくと荷物整理を済ませ、それぞれにコテージ内を探索★青年達は2階の部屋を皆の秘密基地のようにして過ごしていましたね(笑)お茶で一息入れ

た後は、いよいよクッキングのスタートです。今夜の夕食はピザ・焼き鳥・スープ♪生地作りから始まり、食材の下処理(皮むき・切る)・焼き鳥の串刺し・盛り付けと工程もごはんも盛りだくさん★おいしいごはんの為、皆で気持ちを繋げて作っていきます。まずはピザの生地作りから皆でスタートしました。粉から丸まった形ができるまで練って練ってと根気と力がある作業でしたが、混ぜたり、つねったりと生地と闘いながら、粉まみれになりながらもよく最後まで頑張っていましたよ。生地作りで気持ち繋がった後は、生地を休ませている間にそれぞれに分担しながら野菜の下処理を済ませ、焼き鳥の具を刺します。ピーマン・玉ねぎ・ウズラの卵・お肉と色とりどりにバランスよく、串に刺していきます。具材を選べる楽しさもあり、それぞれの個性あふれる焼き鳥の串が完成して、焼く前からとてもおいしそう

共同作業です。それぞれに分担しながらピザ生地を広げて、具材を盛り付けてと工程を進めていきます。終盤にさしかかると途中で疲れちゃったよという気持ちも見え隠れしましたが、そこはおいしい夕食を皆と食べる為です。気持ちを支えながら工程を進めていきます。皆と食べる夕食の為ですもの、皆と作り上げてこそおいしい夕食なのです★でもそうして気持ちを繋いで行くうちに徐々に皆の知っているピザに様変わりして、おいしそうな手作りピザの形として現れましたよ。私も含めて出来上がりにみんなも満足げでした(笑)皆でのおいしい夕食を目指してよく頑張りました!!



クッキングの旅を終えた後は、いよいよ待ちに待った夕食タイムです。さあ、いよいよ待ちに待った夕食タイム。と言いつつも「手を合わせていただきます」とはいきません。先ほど作った手作りピザと焼き鳥が、バーベキューサイトの上で焼き上がるのをじっくりと待たなければなりません。例えば飲食店で注文したメニューがなかなか出てこないとは文句を言うものですが、ちょっと特別なシチュエーションになると待ち時間すらも楽しむようになります。今回の料理は、参加してくれた生徒たちにとって特別な物になったように、焼き上がるまでの時間も、網の上で並ぶ食べ物を一心に眺めたり、炭の火が足りているかな?と覗き込んだりして待ち時間を楽しみました。焼き上がったピザを切り分け、香ばしい焼き鳥を皿に取り、いざ…いただきます!!

みんな手や口の周りが汚れるのも

構わずに、口一杯に頬張っていました。その食べる姿の微笑ましいことと言ったらありません。私たちスタッフの立場からするとそういう姿がキャンプの遣り甲斐でもあるのです。そして、私たちも一緒に食事を頂いた瞬間に、生徒たちが、そんなに夢中になって頬張る理由が理解できました。美味しい!!ピザにしても焼き鳥にしても本当においしいのです。そしてその料理を仲間と囲むのです。そんな食卓は格別でした。



お腹を満たした後にはしっかりと後片付けです。これもまたキャンプを行う者のマナーです。ジャックの樹のキャンプでは、「ただ楽しむ」ではなく、「一生懸命に楽しむ」ことを大切にしています。片づけを大人だけ

でしてしまえば確かに早いですが、それでは意味が無いと思っています。みんなで美味しかった料理に感謝しながら後片付けまで協力して行います。時には先生に尻を叩かれながらも億劫そうに片づけに取り組む姿もありますが、ブツブツ言いながらもやる事が出来れば、それは素敵な経験として一人一人の心の中に残っていくのではないのでしょうか?それも含めて思い出です。私たちはそう考えています。

後片付けを終えて、順番に入浴を済ませて徐々に振り切れっぱなしだった気持ちを落ち着けて就寝モードに。これだけ一日に色々なことを体験するので、疲れて当然です。お風呂で汗と疲れを流して、上がる。と一人また一人と寝床へ入っていき、自然に消灯:みんな清々しい寝息を立てていました。お疲れ様でした、おやすみなさい。

ジャックの樹のキャンプは朝も早いです。翌朝は6時には起床して、着替えを済ませると直ぐに、みんなで散歩へ出かけます。せっかく都会から離れ、自然豊かな地へ来ている

のだから付近を散策しない手はありません。先生たちに思いもよらない時刻に起こされ眠い目をこすりながら身支度を整えます。

眠そうにしていたメンバーもコーシジを一步外に出たら、気持ちのいい朝の空気で一気に目を覚まししました。みんなでゆっくり散歩をしながら植物に触れたり、虫に触れたり、鳥や虫の鳴き声に耳を傾けたり…優雅な朝を過ごしました。



散歩から戻ると、直ぐに朝食です。朝食はスタッフの方で用意した食事を食べてもらいます。この日の朝食は、ご飯、味噌汁、スクランブルエッグ、ウィンナー、サラダ。とても豪華でしょう？朝から栄養満点です。ただ、さすがに昨夜にしっかりと食べたことと時刻がやや早いこともあ

り、昨夜のような勢いのある食事ではなく、ゆったりとした食事時間となりました。大人らしい雰囲気がある食卓を包んでいました。一晩で一回大きく変わったのでは？と錯覚さえ覚えます(言い過ぎですかね？笑)



朝食を終えたら、コーシジの清掃です。荷物を整理したり、テーブルや床を掃除したり、寝具を片づけたり：キャンプ終盤になるとみんな動きが機敏です。協力しながら手際よく片づけられるようにもなってきました。この成長が日頃の生活に良い変化をもたらしたり、あるいは次回のキャンプに活かされたりするのです。その証拠に年一回のキャンプですが、複数回目の参加者は年々「キャンプ上手」になってきているのですよ。その姿を見ると、生徒たちがこれから先、どんな成長をしていき、どんな青年になっていくのかがとても楽しみになるのです。指導者冥利に尽

きます。

きれいに片づけを済ませ、管理棟へお礼のあいさつへ行き帰路へ。

行きの車内とは雰囲気の違い、余韻に浸るような印象のドライブとなりました。中には疲れてウトウトとする姿も。本当にお疲れ様でした。

保護者の方から

この日が近づくとともに、「キャンプだホイ」を歌う回数も増していった英彦山キャンプは、帰ってきたときの本人の満足した表情、先生からお知らせいただいたキャンプの様子、ネットにアップされた写真などから、本当に充実した二日間を過ごさせて頂いたと思います。有難うございました。

「通所施設」での買い物、料理などの経験がキャンプに活かされ、「キャンプ」で学んだ規律などの経験がこれからの日常生活に活かされると思います。

また、最近、ショートステイ、卓球バレー等のいろんな機会を積極的に楽しむ様子は、水泳で培っていただいてるチャレンジする気持ちから生まれてきていると思います。

これからもご指導頂きたく、よろしくお願い致します。

富田華子 父

今回三度目の参加となりました。

息子は、何日も前からシャンプーとボディソープを買って、とても楽しみにしていました。当日は、車の中でしっかりとお弁当を食べて、心身ともにベストな状態での参加となりました。見送りの時には、こちらに笑顔で手を振る姿に嬉しく思いました。ただ、自分の気持ちや思いを言葉で伝えることが出来ないで、買い物するとき迷惑を掛けていないかとか、勝手にトイレに行って心配掛けないだろうかとか、もろもろ心配はありましたが…。次の日、パピヨンプラザに少したくましくなって、なんだかすっきりした顔をして帰ってきた姿を見て、安心しました。これから先、大人になるまでに家族以外の人の関わりを出来るだけ増やしていけたらいいなあと考えています。今回も親子共々良い経験をさせていたいただきました。有難うございました。

力石達矢 母

スタッフより

「キャンプに参加して」

この度は、キャンプに参加させて頂き有難うございました。晴天の青空の下、このキャンプを通じて子供たちが自分自身を成長させよう、又自分の事を先生や友達に分ってもらおうと努力する姿は大変な感銘を受けました。

食事の用意では、自分の持てる力で一生懸命にピザの生地をこねたり、想像力を一杯活かしたトッピングをしました。個性あふれた「自分らしい」ピザが出来ました。炭を起す時は、自主的に参加してくれたり、自分なりに、できることを工夫して

「みんなの為に何かしてあげたい」という優しい気持ちがとても嬉しく感じました。何事も一歩一歩壁にぶつかりながらも成長していこうという姿勢は大変素晴らしいと思います。来年のキャンプでもたくましく成長した姿を見せてくれることを楽しみにしています。



竹若勇一

「仲間と一緒に」

今回初めてジャックの樹のキャンプに参加しました。買い物・食事作り・夕食と普段何気なく行っていることかもしれないですが、そこに仲間が存在するだけで、楽しめたり、頑張れたりとそれぞれの姿が見れました。そんな楽しみの中から個々の世界から集団への楽しみへと広がっていき事は私たちにとっても、とっても楽しい時間でした。また彼らと一緒に楽しい空間を共有していると思います。

鈴木和加菜

「楽しむのも全力で」

参加した生徒たちにとっては年に一度の「ジャックの樹キャンプ」とても楽しみに参加を重ねてくれる生徒と親御さん。もちろん私たちスタッフも楽しみにしています。そんなたくさんの方々の楽しみを背負って企画するキャンプですから、精一杯生徒たちにも楽しんでほしいし、自分たちも楽しみたい。そういう思いで私自身もキャンプに臨んでいます。ただ勢いに任せてはっちゃけてしまうのではなく、味わいながら、いろんなことを感じたり考えたりしながらの一泊二日にしたいと毎回のよう

います。タタをこねて怒られたり、笑ったり…どの瞬間でも精一杯になれるキャンプにしたいと思っています。

年々、その場にいるメンバーの想いの差が埋まり、一体感が増していくキャンプが楽しみであり、生徒たちの成長を頼もしく感じています。非日常だからこそ再発見できるものもたくさんあります。また来年も楽しみにしています。今年もありがとうございました。

永田淳哉

「共に・・・」

今回のキャンプいかがでしたか？良い経験になりましたか？人に託すというのは…私は、「勇氣」のある行動だと思っています。ではなぜ 他人に「託す」のか…それは 子供の「成長を願う」親の思い・願いだと思っています。

将来を見据えてであり力試しのよい時間かもしれませんね。

私も50歳で 父親になり(感謝)期待と不安が交差する場面があります。「これでいいのか?自分の判断が子供を押しつけていないか?」複雑な思いを感じます。

そんな時に「感謝」の念を思い浮かべます。子供と出会えた事 沢山

の方々とお会いした事 それが自然に将来の子供の「成長」につながるのだと感じるのです。

そう! 確かに 私たちも毎回のプール指導を「将来の実像」に結びつけて指導していきたいと思っていますが、それ以上に 毎回 感謝している事は、保護者が 私たちスタッフに安心して託して下さる姿勢です。その姿勢に 毎回 「感謝」の一言です。お父さん お母さん・・・ありがとうございます この気持ちは子供達そして ジャックの樹スタッフ一同の心の声でもあるのです。

子供たちの「成長」と私たちの「成長」は同じ土台で成り立っています。来年も 再来年も 私たちは共に歩み生きあっていきたいと思います。宜しくお願いします。

ジャックの樹 主宰 渡辺千秋

「ジャックの樹」ってどんなところ?

障がいがあっても地域の中で自分らしく生きていきたい。そんな普通の願いを叶えるためには、小さい頃から自立するための技術や精神、体力を身に付けることが必要です。その療育活動をサポートしていくのが、地域密着型余暇支援活動組織「ジャックの樹」です。

<http://jacknoki.com/>